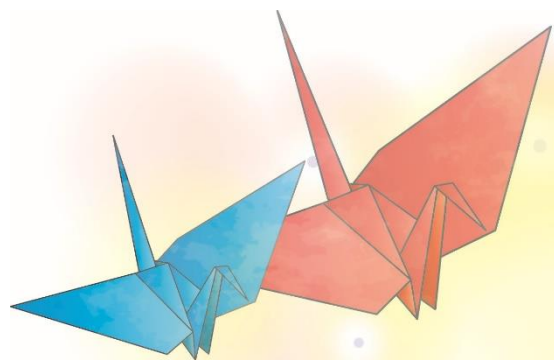
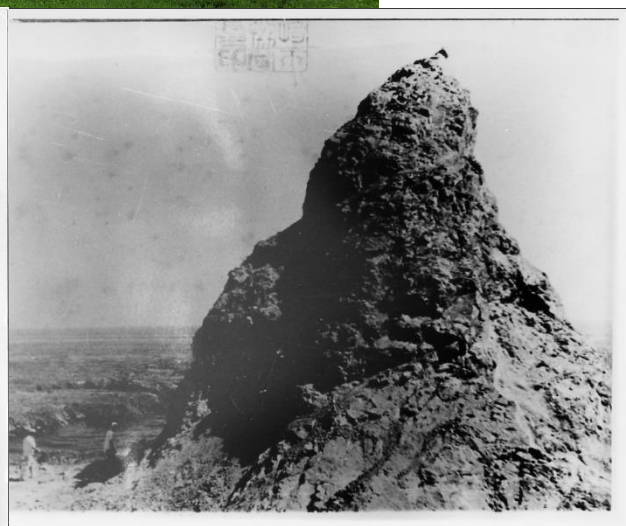




令和6年度 茅ヶ崎市ピーストレイン 平和大使広島派遣報告集

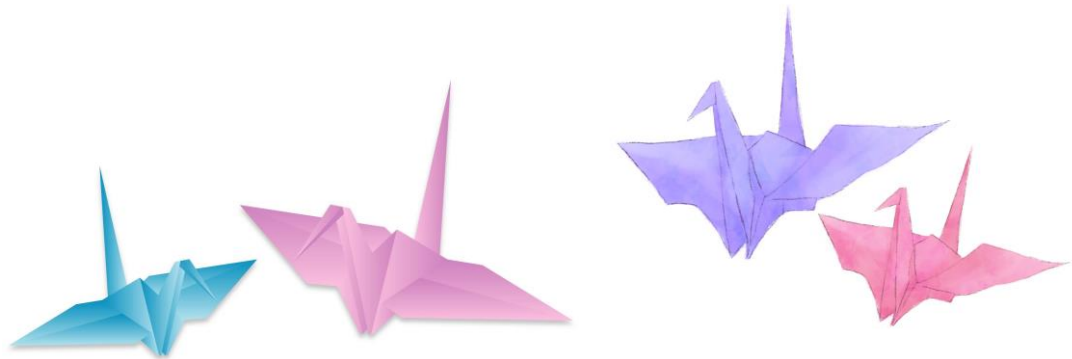


茅ヶ崎海岸上陸演習・25歩兵師団（アメリカ国立公文書館）



砲撃演習により変形した烏帽子岩（茅ヶ崎市）

この報告集は、茅ヶ崎市ピーストレイン平和大使広島派遣事業に参加した児童・生徒が、平和記念式典への参列など広島で見たこと、感じたこと、体験したことを伝えるため、作成したものです。



茅ヶ崎市

ピーストレイン平和大使広島派遣事業

次代を担う若い人たちを広島市に派遣し、8月6日に行われる平和記念式典への参列や、広島平和記念資料館等の見学を通し、現地で原爆の悲惨さ、平和の尊さを肌で感じ、学び、体験したことを一人でも多くの人々に伝えてもらうことを目的としています。

目 次

8月5日平和記念資料館見学

(絵)	高木 駿汰		3
(作文) 「私達の使命」	石田 葉月		4

8月6日平和記念式典

(絵)	材井 心都		5
(作文) 止まった過去	大和田 みどり		6

8月6日ホノルルの高校生との対談

(絵)	丹羽 希美		7
(作文) 「区別」	丹羽 希美		8

8月6日本川小学校資料館

(絵)	高中 琴望		9
(作文) 本川小学校に行ってみて	高中 琴望		10

8月6日とうろう流し

(絵)	高木 駿汰		11
(作文) 灯籠流し	材井 心都		12

8月7日ヒロシマ青少年平和の集い

(絵)	石田 葉月		13
(作文) 真の相互理解	大和田 みどり		14

ピーストレイン平和大使広島派遣 事前学習会 ・ ・ 15～16

ピーストレイン平和大使広島派遣の様子 ・ ・ ・ 17～19

ピーストレイン平和大使広島派遣 伝える ・ ・ ・ ・ ・ 20

平和都市宣言 ・ ・ ・ ・ ・ 21

茅ヶ崎市核兵器廃絶平和都市宣言 ・ ・ ・ ・ ・ 22

8月5日 広島平和記念資料館見学



高木 駿汰

「私達の使命」

石田 葉月

「地獄を見た」そんな当時の人々の実相を写真や被爆者の遺品が重く、私達に語った。

私の心に残ったのは被爆者一人一人のストーリーだ。原子爆弾の被害を受けた七十九年前の事実や情報だけでなく、被害者の遺品と一緒に展示されたその方の八月六日のストーリーがあった。「被爆者」という一括りにしてはいけない深い思いや大きな悲しみが一人一人にあることを忘れてはならないと思った。

平和祈念資料館は未来へ過去の過ちを語り継ぎ、訪れた人の平和意識を高める場所だった。目を逸らしてはいけない。この事実を。この思いを。語り継ぐのは私達でもあるのではないだろうか。資料館へ訪れることの出来ない、この過ちに触れる事の出来ない人にも私達が語り継いでいく事が出来れば、平和の輪は広がっていく。それが平和大使として広島へ派遣させて頂いた私達の使命なのだと気が付いた。

過去の過ち。被爆者一人一人のストーリーだけでなく、現在の平和への自国の取り組みも伝えていかねばならない。現在の日本は、国際的なルールづくりを主導するとともに、途上国の能力構築支援などを通じ、地域及び国際社会の平和と繁栄に貢献している。この事を知った私は「安心」した。この安心は決して当たり前のものではない。人々の安心を絶やさぬよう、現在の取り組みに自信を持って、過去の過ちとともに語り継いで、身の周りから平和の輪を広げていこうと私は思う。

8月6日 平和記念式典



材井 心都

止まった過去

大和田 みどり

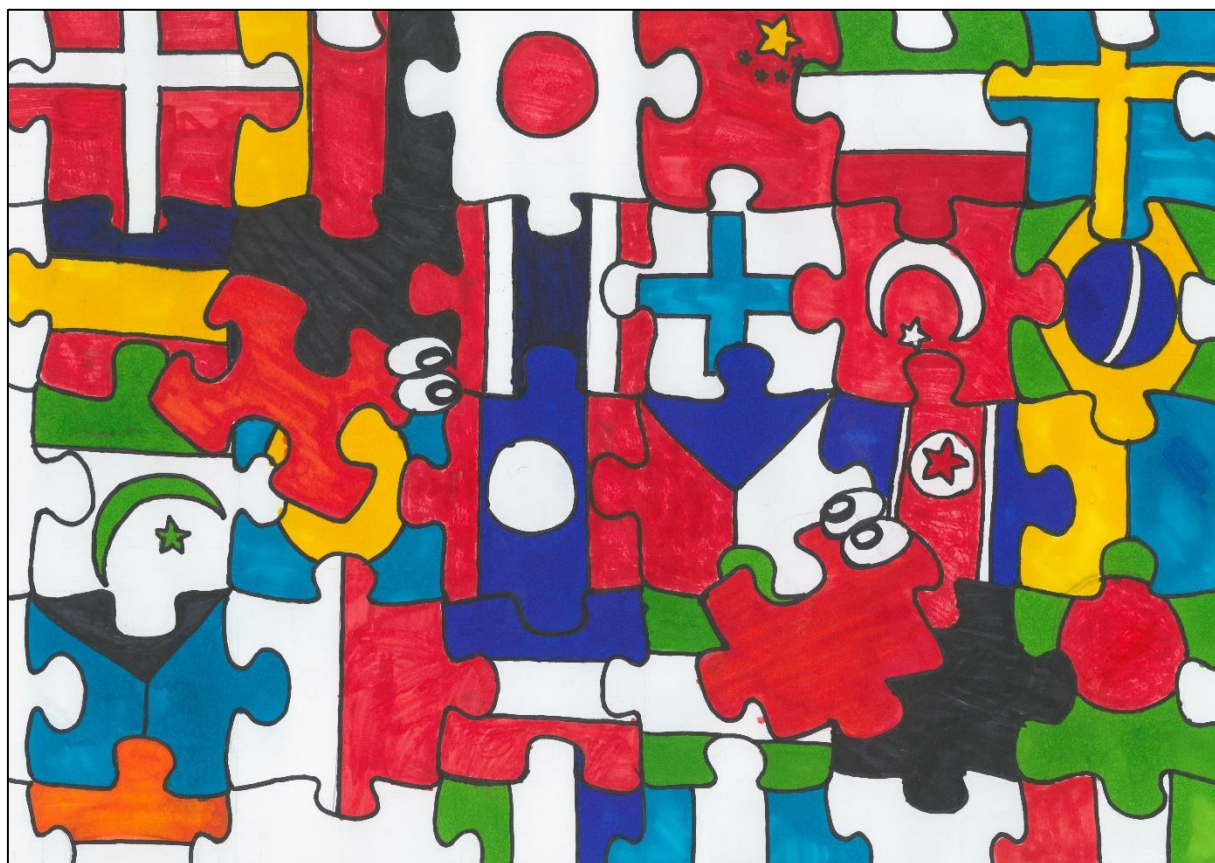
原爆投下日の空は快晴で日光が輝いていた朝だったそうだ。平和祈念式典の朝も似たような朝だった。いつもの朝と変わりはないが、何か秀麗な、厳かな雰囲気漂っていた。

七十九年前の八月五日。広島が一変される出来事が起こった。それ以来、世界の恒久平和、核兵器の廃絶を願って平和記念式典が行われ、各国の指導者や国連の方々、被爆者に被爆者遺族などが、平和を考える一つの大きな行事となっている。

私は戦争を体験していないから、戦争の実態を詳しくは知らない。しかし、原爆が実際に投下された八時十五分に目を閉じると資料館で見た当時の人々の姿が目の奥に広がり、亡くなってしまった人、今なお後遺症に苦しめられる人、世界のどこかで起こっている戦争によって辛い思いをする人々と過去を共有している気持ちになった。そして、今を生きる私たちが過去を置き去りにしてはいけなと強く感じた。輝かしい希望とともに生きていく予定だった人々、家族や友人を亡くし、ひもじい思いをしてきた人々、後遺症による苦しみと共に生きなければならなかった人々……。様々な情景が私の中で思い浮かんだ。平和記念公園を案内して下さった恵美勇作さんから、「当時の広島を復興させるために全ての瓦礫やお骨などを撤去するわけにはいかないから、市内の地面に十センチ程土を盛り、その上に新しいコンクリートなどの土地を広げた。」と聞いた。つまり、私たちが歩いた地の下にはまだ亡くなった人々が埋まっているのだ。そう考えると、戦争の恐ろしさが分かり、地面の下では今でも時が止まっているのだろうと感じた。厳かな雰囲気に包まれた式典で私は、暑さも時間も忘れていた。そして、この式典が行われる限り平和という願いは絶えぬ人々の中に芽生え続けるだろうと思った。

式典に参列した人の数は限られていたが、みな平和に関心があり、参列していた。参列している人同士、国や性別、人種はそれぞれ異なっているけど、考えで一つにまとまっている気がした。そして、私がこの式典に参列できたのは私が環境に恵まれていたからだと感じた。平和を願っていても、母国から逃れて暮らせばならぬ難民の人々。いまだに続く戦争の被害者となってしまう人々。世界のどこかでは戦争が起こり、平和記念式典の間でさえ、命が奪われ続けていることに気付いた。だから私は、この式典に参列していない、または参列できない状況にいる人たちのことも忘れず、世界に平和という輪を作っていきたいと思った。

8月6日 ホノルルの高校生との対談



丹羽 希美

「区別」

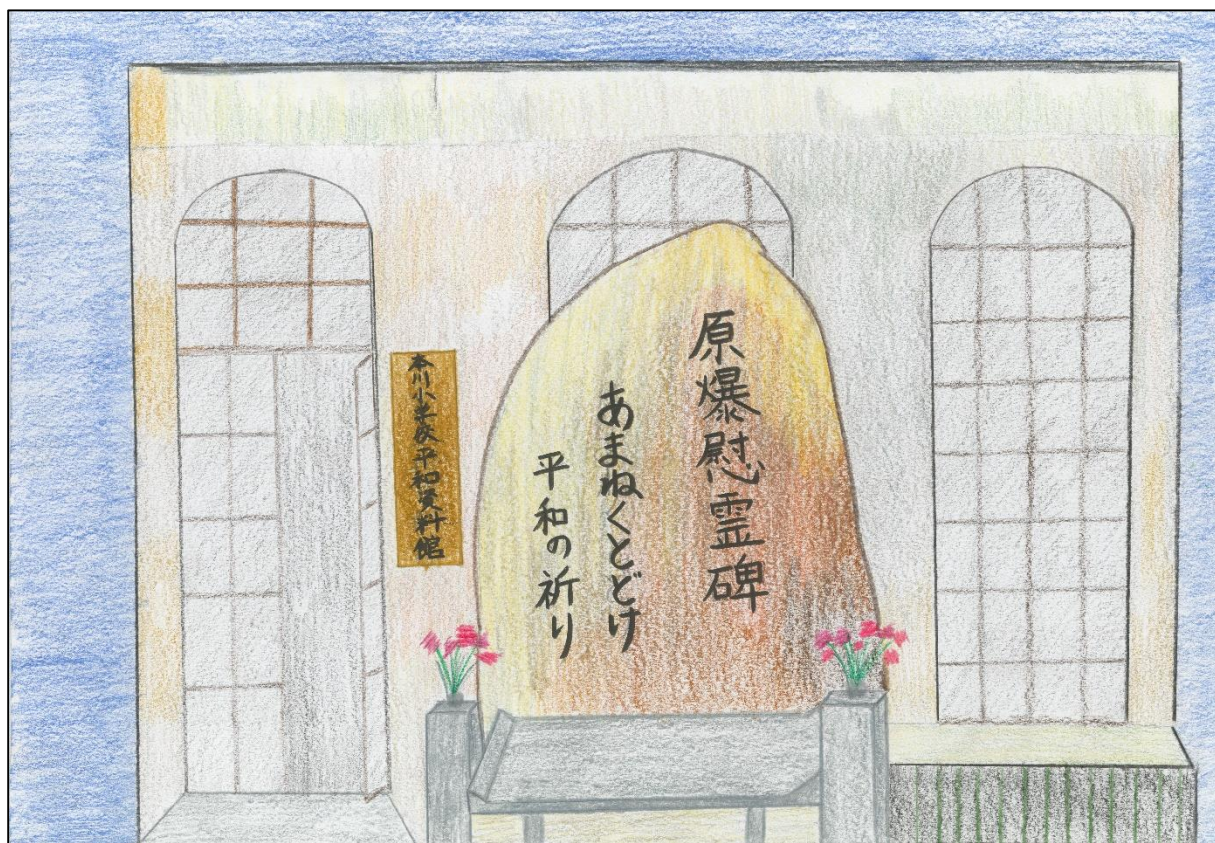
丹羽 希美

「区別」とはなんでしょう。「区別」とは、違いによって分けることを意味します。「黒人・白人」「男・女」「敵・味方」私達は無意識に他者と自分を区別し、その違いに安堵しては非難しています。

私は、ホノルルの高校生と対談した際、印象に残っている言葉があります。それは、「過去を忘れない」です。その言葉を聞いた瞬間、私の中でわかりあえたような気がしました。なぜなら、私も同じような考えを持っていたからです。今回の3日間の中で、戦争の悲惨さを感じたと共に、原爆を伝える人が減少しているという事実を実感しました。そこで私は、過去を見捨てず、未来へ繋げていくという考えに達しました。

肌の色・顔・出身・言語そして敵味方。私達は区別しがります。しかし、そんなものにとらわれないでください。ただ一つ共通点があれば、世界中の人々とわかりあえることができます。たった一つ、されど一つ。その一つを大切にしてみてもどうでしょうか。そうすればきっと、わかりあえる日がくるはずです。

8月6日 本川小学校資料館



高中 琴望

本川小学校に行ってみて

高中 琴望

私は、広島市で生まれ、幼稚園の年少まで広島で過ごしました。少しは戦争のことを知っていると思っていましたが、まだまだつらく悲しい出来事が起きていたことを知り、胸がぎゅっとなりました。

本川小学校で生き残った居森清子さんは、私と同じ小学校6年生。家族全員を原爆で亡くし、とてもつらく苦しい生活を送ったそうです。あたりは火の海、川を流れる大量の死体、その川で火がおさまるのを待つ・・・もし自分にそんなことが起きたらと思うと、とてもたえがたく、ゾッとする話だと思いました。

家族や友達と楽しく、笑顔で過ごせる毎日に感謝し、平和の大切さを一人一人がしっかりと考え、二度と原子爆弾が使われることのない世界になってほしいと思いました。

8月6日 とうろう流し



高木 駿汰

灯籠流し

材井 心都

79年前、原子爆弾が落とされ、火だるまの状態で川に飛び込み、大勢の人々が苦しみ、もがきながら助けを求めて入った元安川へ私は平和大使として灯籠流しに参加しました。生きたくても生きられなかった多くの命があった場所で、平和を願い、犠牲になった人々を思いながら、気持ちを込めて作った灯籠はゆっくりゆっくり流れていきました。

流れていくきれいな灯籠を見ているうちに、言葉では表すことのできない複雑な気持ちになってきて、ただただ亡くなった方々が安らかに眠ってほしいという思いがあふれました。灯籠流しには、日本人だけではなく、多くの外国の人たちも来ていました。今もなおどこかで起こっている数々の戦争。広島の人々に祈りを込めながら、みんな同じ気持ちで、戦争のない平和な世界が訪れるようにと願っていたと思います。

この先もずっと尊い命がうばわれることのないよう、原爆投下という大きな過ちはもう二度と起こしてはいけないことだと改めて思いました。

8月7日 ヒロシマ青少年平和の集い



石田 葉月

真の相互理解

大和田 みどり

青少年平和の集いでは被爆者の被爆体験講話を実際に聞いた。今、同じ空間にかつて被爆した人がいて、その人の話を聞くことができるということがとても考え深く、大切な経験となった。

被爆者の体験話を実際に聞くと、テレビや本で聞いた話よりも実感が湧き、何よりとても力強かった。この体験談は今では想像もできないほど残酷なものだった。しかし、とても現実味があつて私の脳内に深く刻まれた。被爆者の高齢化が進み、平均年齢が八十五歳を超えた中、被爆者がいなくなっても今回の経験が私の中で生き続けるだろう。

その後に行ったディスカッションでは、参加者の出身地は東京、広島、群馬、神奈川と異なり、それぞれの地域が経験した戦争も違った。しかし、どの地域にも共通して過去の被害者を蔑ろにしないために後世へ伝えていくことの大切さをわかっていて。だからこそ、話した内容は起きた戦争のことより、それを受けて後世にどう伝えていくかにスポットライトが当たった話し合いだった。似たような意見もあれば自身の発想になかった斬新な意見もあり、学びが多い話し合いだった。その中でも、「核兵器をなくすためにできること」のディスカッションはとても良い話し合いだった。私達の班では、似た意見を分かりやすくするためにウェビングマップを使ってディスカッションを行った。私は、核兵器をなくすために、戦争を体験していない私たちの世代が核の怖さを伝えていく必要があると考えていた。それを受けて、班の仲間は「知ったことを周りに伝える。」や、「恐ろしさを知る。」などの意見が生まれた。しかし、もっと根本的なことを知る必要があると考えた仲間から「そもそも核兵器保有国はなぜ核兵器を持っているのか知る」という意見が出た。私は、「確かにそうだ。」と納得した。怖さを伝えることは大切だが、伝え、願うだけでは核兵器はなくなる。だからこそ、なぜ保有国が核兵器を手放さず、保有し続けるのか知る必要があると気付いた。このように、自分が正しいと思ったことでも話し合いを進めていく上でもっと大切なことが見えてくることを学んだ。

ピーストレイン平和大使広島派遣 事前学習会 ①

講座：茅ヶ崎の戦争にまつわる歴史（7月26日）

平和大使は、広島に派遣される前に、茅ヶ崎の戦争にまつわる歴史について学びました。茅ヶ崎市の戦争被害や幻のコロネット作戦について知り、戦後の茅ヶ崎海岸がアメリカ軍の演習場となり、生活や漁業に影響を受けたことを学びました。



講座：ハワイと広島～移民と戦争の歴史から学ぶ～（7月30日）

8月6日に広島市内でホノルルの高校生と交流するのに先駆けて、ハワイの移民や戦争の歴史についてオンライン講義で学びました。太平洋戦争が始まった時にハワイに住んでいた日系人のことを知り、様々な立場の人の気持ちを考えました。講義で学んだことを踏まえて、ホノルルの高校生へ質問したいことを話し合いました。



折り鶴へ平和への願いを込める

毎年平和を願って市民の方から寄せられた折り鶴をボランティアの方が千羽鶴にしてくださり、茅ヶ崎市ではその千羽鶴を広島平和記念公園内にある「原爆の子の像」に献納しています。平和大使も千羽鶴ボランティアに折り鶴の折り方を教わり、自分で折った鶴に平和へのメッセージを書いて、千羽鶴に想いを込めました。



ピーストレイン平和大使広島派遣 事前学習会 ②

千羽鶴に平和への思いを込める



講座：広島歴史（8月1日）

8月5日に平和記念資料館を見学する前に、広島について学びました。原爆はどんな爆弾なのか、なぜ広島に投下されたのか、原爆の被害の状況について学びました。戦争は人の心の中で生まれるものであるから、心の中に平和のとりでを築かなければならないことを学びました。



講座：「ディスカッション」をやってみよう！！（8月1日）

8月7日にヒロシマ青少年平和の集いにて他の自治体の中高生と平和についてディスカッションをするのに先んじて、ディスカッションについて学びました。「あなたの地元では、どんな戦争を経験して、それをどう伝えたいですか？」、「核兵器をなくすために自分たちは何ができますか？」というテーマに対して自分の意見や感想を出し合いました。



8月5日 ピーストレイン平和大使広島派遣

茅ヶ崎市から広島へ出発



平和記念資料館見学



原爆の子の像に千羽鶴を捧げる



8月6日 ピーストレイン平和大使広島派遣

平和記念式典に参加



ホノルルの高校生との交流



とうろう作り・とうろう流し



原爆ドーム



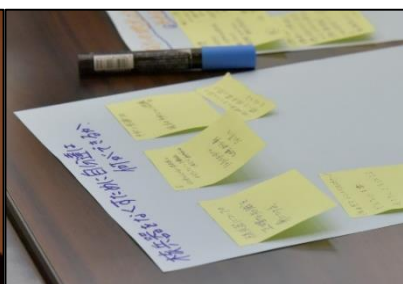
本川小学校資料館見学



8月7日 ピーストレイン平和大使広島派遣

ヒロシマ青少年平和の集い：核兵器をなくすために自分たちは何ができるか

平和大使は、広島を始めとする他自治体の中高生と「あなたの地元では、どんな戦争を経験して、それをどう伝えたいですか?」、「核兵器をなくすために自分たちは何ができますか?」等についてディスカッションをしました。



8月13日 茅ヶ崎FM出演

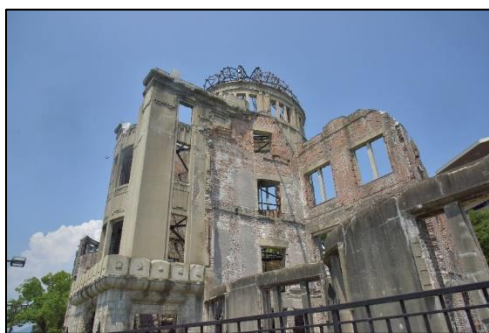
広島で体験したことを、平和大使として伝えていく

平和大使は、茅ヶ崎FMに出演し、ラジオを通して市民の方々に、広島で印象に残ったこと、どのように次の世代に戦争の悲惨さを伝えていくか、平和への思いを語りました。



ピーストレイン平和大使広島派遣 平和大使が広島で見たこと・感じたこと

ピーストレイン平和大使広島派遣事業は、次代を担う若い人たちを広島市に派遣し、8月6日に行われる平和記念式典への参列や、広島平和記念資料館等の見学を通し、現地で原爆の悲惨さ、平和の尊さを肌で感じ、学び、体験したことを一人でも多くの人々に伝えてもらうことを目的としています。「平和について」ポスター・作文コンテストから選出された平和大使は、平和への活動を、一人でも多くの方、そして次の世代に伝えていくため、広島で見たこと・感じたこと、体験したことを絵と作文にしました。また、広島での様子を映像にしました。



平 和 都 市 宣 言

茅ヶ崎市は、正義と秩序を基調とする世界平和を希求している日本国憲法の精神にもとづいて、世界連邦の建設に同意し、世界の永久平和の確立と人類の福祉増進のために、全世界の人々と相結んで、この崇高な目的の達成に努力する平和都市であることを宣言する。

1 9 6 2 年 1 2 月 1 9 日 茅ヶ崎市議会

茅ヶ崎市核兵器廃絶平和都市宣言

茅ヶ崎市は、１９６２年１２月１９日世界人類共通の願いである真の恒久平和を希求し、その実現に努めるため、平和都市宣言を行った。

しかるに地球上では今なお核兵器の増強はとどまることなく、全人類の生存に深刻な脅威をあたえている。

よって、再び全市民の名において次の宣言をする。

日本国憲法に基づき国是である非核三原則を遵守する国とともに、地球上のすべての自然を破壊し、全人類を滅亡させるにたるあらゆる国の核兵器の使用を全面禁止する国際世論を喚起するため、茅ヶ崎市はここに核兵器廃絶平和都市であることを宣言する。

１９８５年１２月２４日 茅ヶ崎市

令和6年度 茅ヶ崎市ピーストレイン平和大使広島派遣報告集

令和6（2024）年9月発行

第1刷 60部作成

発行 茅ヶ崎市

編集 文化スポーツ部多様性社会推進課

〒253-8686

神奈川県茅ヶ崎市茅ヶ崎一丁目1番1号

電話 0467-81-7150

FAX 0467-57-8388

ホームページ <https://www.city.chigasaki.kanagawa.jp/>

※掲載されている作品は、令和6年8月9日以前に書かれたものです。

※作品集の作成にあたり、明らかな誤字・脱字以外は原文のままで編集を行っています。